ふくいミュージアム

1984. 10. 1
No. 6

福井県立博物館

自在鯉置物　　明珍吉久作
長さ　34 cm

鉄製。胴を左右に動かせることからこの名がある。明珍吉久は越前の甲冑師として有名であるが、鐔(つば)・置物などの金工品にも秀れたものがある。

県立博物館の教育普及行事について

博物館が博物館であるのは、展示を中心とする学習の機会を地域の住民に提供し、そのために、調査研究などの業務をしていることにある。従って教育普及ということばは、展示やその解説のシステムも含むものであるが、慣用的に展示以外のものに限っていることが多い。ここでも教育普及を展示以外の学習機会の提供ととらえる。

当館では、教育普及を博物館の四大業務の一つととらえ、体験学習室の設置、行事の開催をしている。以下、当館の状況をお知らせし、御指導、御意見を得たいと思う。

教育普及事業の構成

当館の主催する教育普及行事は、実施のし方により次のように区分している。

1．講演会　　各分野の第一人者を招いて行う講義。通常は年2回であるが、今年は開館記念の講演会も含めて3回計画した。講師及び演題は次のとおりである。笠原一男氏「蓮如と朝倉敏景」、岸俊男氏「越前の条里制」、長谷川善和氏「恐竜の進化」。

2．博物館教室　　外部の講師や館の学芸員が担当して、講義を主に展開するもの。内容によっては見学会を組み込むこともあり、館蔵資料、視聴覚教材もできるだけ使うようにしている。それぞれの分野が担当し、一つの教室は3～4回のシリーズで構成されている。今年度の計画は次のとおり。自然「大地の生いたち」、考古「古代の越前若狭」、歴史「江戸時代の交通」、美術工芸「白山信仰の問題」、民俗「くらしと野生植物」。なお、やや異質であるが「夏休み標本の採集・整理のし方指導会」もここに含めて良かろう。

3．学習会　　実技を主にしたもの。ただし、技術を習得し実際に役だててもらおうとするものと、技術の背景の理解を目的にしたものとがある。前者は「拓本をとろう」(対象中学生以上)、「しめ縄を作ろう」(対象小学生と父兄）があり、後者には「火を起こしてみよう」(対象小学校高学年）がある。

4．観察会、見学会　　館外での自然観察、遺跡見学などで単独に実施するもの。今年度は「水生植物観察会」、「わたり鳥の観察会」を企画しているが天候に左右されることが多く、前者は中止になっている。「博物館オリエンテーリング」は展示の見学にオリエンテーリングの形式を持ち込み、館内で行うものであるが、今年度は学習会に区分している。

5．映画会　　日ごろ見る機会の少ないすぐれた学術・記録映画を紹介する目的で、年6回開催している。1回あたり1～2時間の範囲で上映し、上映時に解説、しおりの配布をしている。

火をおこしてみよう　――学習会の例――

5月27日に当館の最初の事業として開催したもので、対象は小学4年、5年、6年。参加者は43人であった。指導は学芸員の久保智康と山形裕之、ボランティアの増田美佐子が行った。

この企画のねらいは、火を起こすことの難しさや工夫を体験し、過去の生活の一端を理解させようというものである。摩擦（舞錐法）による発火を主とし、あわせて火打石による発火も試みた。舞錐法では慣れてくると、わずか5分程度で火を起こすことができる。初めての子供でも、条件が良ければ10分とかからない。体験学習室で実験をしてもらう場合は、この程度がてごろである。しかし学習会では2時間をフルに使い、しかも単なるお遊びにとどまることなく発火の原理や、背景の生活を理解してほしい。こうした考えからこの日は、用具の組み立てから始め、全く自由に舞錐を回転させてみる、木くずの出方を

観察させる、などの方法をとった。

この日、火起こしに成功したのは舞錐法で3人、火打石は0であった。終了後に内部でこの催しについて検討したところ、①発火の原理や、生活との関りの説明が少な過ぎた、②参加者の成功率を高めるべきだ、等の問題が指摘された。

当館の学習会はさまざまな理由により、何回か継続して開くのではなく、少なくとも今年度は1回限りである。そのため複雑で長時間を要する内容はとりあげることができない。成人を対象にした場合でも「拓本をとろう」のように、初歩だけは短時間でできるものにとどまっている。子どもを対象にし、「楽しみながら学べる」テーマを選ばざるを得ないのである。「火起こし」の場合、企画段階ではある程度の説明をすることにしていたが、子ども達が夢中になっており、展開をスムーズにするために省略したのである。次に成功率の問題をみると、子どもが満足できるためには、成功、不成功がはっきりわかること、ある程度の苦労によって初めて成功し得るものでなければならない。最終的な成功こそ少なかったが、全員が煙を出すことに成功し、たいへん驚き、喜んでいた。従って、難しさと楽しさをかねそなえており、かえって所期の目的に近づけたと言えるだろう。

夏休み標本の採集・整理のし方指導会、くらしと野生植物　―― 博物館教室の例 ――

「標本の作り方指導会」は7月24日の午後、小学校高学年と中学生を対象に開いたものである。午後1時から岩石・鉱物、植物、昆虫についてそれぞれ1時間ずつの指導をした。指導は学芸員東洋一、館外講師の渡辺定路氏と下野谷豊一氏があたった。講堂を使用し定員を180人としたが、1コマずつの参加もできるようにした。

この企画の特色は時宜を得た内容で、参加者が極めて多かったことである。小中学生で夏休みの自由課題として標本採集をする者は多い。これに対して、夏休みの終了まぎわに「標本の名まえを調べる」ための催しは他の博物館などでも開催しているが、事前に指導をする催しは意外に少ないのである。この企画の実施にあたり、博物館では県内の小中学校に案内を送付した。各学校で子どもに連絡していただいたことが、多数の参加者を得られた理由の一つである。岩石・化石の例では岩石等の分布、採集時に注意すべきこと、標本の整形や同定のし方の説明をした。短時間の事前の指導ということで実技まで入れない点は問題として残るが、受講者の中に福井市理科作品コンクールに入賞した者もあるなど、効果の大きかったものと言えよう。

民俗部門では8月から10月にかけて「くらしと野生植物」を開催した。野生植物の利用の技術や実態を知り、過去の生活を知ろうという趣旨である。3回にわけて実施したが、繊維材料としての野生植物、食料としての野生植物、栽培された野生植物という内容である。対象は高校生以上とした。博物館の行事は、子供か専門家を対象にすることが多く、一般成人を対象にすることはやや少ないように思われる。対象が成人だと、関心が広く分化していて、求められているテーマがわからなかったり、あるいは開催の趣旨にあわないなどの問題が多いためであろう。この企画でも定員40人に対して、1回めが12人、2回めが直前のテレビの案内があったものの23人にとどまった。成人を対象とする行事の難しさを十分に知らされるものであった。

当館が実施した三つの事業を概観したが、問題点の多いことが痛感される。その原因は博物館の立地や、開館時間などの物理的制約とともに、こうした事業について十分な思想、運営についてのノーハウを持てないでいることにあるだろう。今年度下半期も相当な行事を企画しているが、それらの経験の中で、少しでも問題の解決に近づいて行きたいと考えている。

（坂本）

研究ノート

越前の石棺について

越前は、全国的に見て石棺の分布密度の高い地域である。北陸地方で古墳時代前期・中期・後期の各時期の石棺が発見されている地域は、越前のみである。加賀や能登で後期の石棺が若干発見されているが、その他の地域では全く見られない。ここでは、古墳時代における越前の地域的特徴の一つである石棺について、研究の現状を述べたい。

現在、形態の把握できる石棺は、越前で23例確認されている（第１図）。①そのうち18例は刳抜式石棺で、組合式石棺は２例のみである。ただし、３例は不明である。また形態による分類から見ると、割竹形石棺、箱形石棺各１例、不明石棺６例で、残りの15例は全て舟形石棺である。これらのことから、越前では刳抜式の舟形石棺が盛行したことがわかる。舟形石棺の盛行する地域は、群馬・島根・熊本の各県で、畿内より離れており、在地勢力の強かったところである。

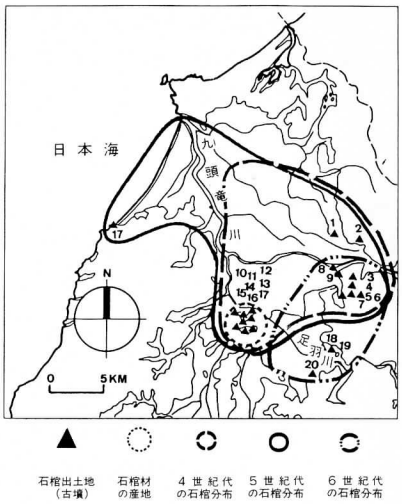
越前で二百数十年にわたって使用された石棺は、次のように大きく時期別にその特徴をまとめることができる。

Ⅰ．**前期（４世紀代）の石棺**
例．山頂古墳石棺
小山谷古墳石棺
牛ヶ島石棺

- ○石棺のつくりが精巧である。
- ○棺床に石枕のあるものがある。
- ○石棺の表面に浮き彫りや線刻のあるものが多い。
- ○石棺は竪穴式石室か、直接土中に安置される。

Ⅱ．**中期（５世紀代）の石棺**
例．龍ヶ岡古墳石棺
西谷山２号墳石棺
二本松山古墳石棺

- ○石棺のつくりが粗雑になる。
- ○石棺の蓋が屋根形を呈し、棟幅が新しくなるにつれて広くなる。（畿内の石棺と同じ変化を示す。）②
- ○棺床に排水孔（溝）が出現し、盛行する。③
- ○石棺内に２体合葬例がある。④
- ○縄掛突起の数が新しくなるにつれて多くなる。
- ○石棺は直接土中に安置される。



1．牛ヶ島石棺
2．六呂瀬山１号墳石棺
3．石船山古墳石棺
4．鳥越山古墳石棺
5．二本松山古墳１号石棺
6．二本松山古墳２号石棺
7．猪谷石棺
8．泰遠寺山古墳石棺
9．春日山古墳石棺
10．小山谷石棺
11．小山谷古墳石棺
12．龍ヶ岡古墳石棺
13．山頂古墳石棺
14．宝石山古墳石棺
15．兎越山５号墳石棺
16．西谷山２号古墳１号石棺
17．西谷山２号古墳２号石棺
18．酒生石棺
19．新溜古墳石棺
20．東郷石棺

Ⅲ．**後期（６世紀代）の石棺**
例．新溜古墳石棺
春日山古墳石棺

- ○石棺のつくりは中期のものより粗雑である。
- ○棺床の排水孔（溝）は無くなる。
- ○横口式石棺が出現する。
- ○石棺内に５～６体合葬例がある。
- ○石棺は、直接土中か横穴式石室内に安置される。

第１図　石棺の分布

なお、５世紀代の石棺は、排水孔の有無や排水孔の位置、排水溝（中央溝・側溝）の有無によって更に細分できる。（排水孔とは、棺床から棺外へ通じる穴で、棺内の液体を棺外へ排出するために設けられたもの。中央溝とは、棺床の中軸線上に造られ排水孔につながる溝。側溝とは、棺床の側端に造られ排水孔につながる溝。）

現在、排水孔の見られる石棺は、表や第２図のとおり６例ある。⑤いずれも５世紀代の舟形石棺である。なお、石釧等を出土し、５世紀の第１四半期に比定

No.	古墳並びに石棺名（所在地）	身蓋の有無	排水孔の形	排水孔の規模（cm）	棺床面長を100としたとき端部（脚部の方）から排水孔の中心までの長さ※	排水溝の有無 中央溝	排水溝の有無 側溝	棺床面長を100としたとき、中央溝の長さ※	墳形
1．	西谷山２号墳２号石棺（福井市西谷町）	身・蓋有	方形	8×9	33.13	無	無	—	円墳
2．	西谷山２号墳１号石棺（福井市西谷町）	身蓋有	方形	9×11	30.53	無	無	—	円墳
3．	泰遠寺山古墳石棺（松岡町）	身有蓋無	方形	11×11	20.86	有	無	56.44	前方後円墳
4．	石船山古墳石棺（松岡町）	身有蓋無	方形	7×7	13.15	有	無	23.59	前方後円墳
5．	宝石山古墳石棺（福井市足羽山）	身・蓋有	方形	4×4	1.82	有	有	19.51	円墳
6．	二本松山古墳２号石棺（松岡町）	身・蓋有	三角形	不明	3.75	有	有	11.88	前方後円墳

※『足羽山の古墳』斉藤優，1960　『改訂松岡古墳群』斉藤優，1979　「越前国吉田郡石船山の古墳及発見遺物」『考古界七篇八号』高橋健自，1908

排水孔や排水溝のある石棺の諸特徴 一覧表

される龍ヶ岡古墳石棺は、一般に家形石棺といわれているが、身の底部の形からはむしろ舟形石棺としてもおかしくないもので、排水孔はない。よって、5世紀代の舟形石棺は次のように分類できる。

II－1　排水孔が無い。（龍ヶ岡古墳石棺）

II－2　排水孔のみ有る。（西谷山2号墳1、2号石棺）

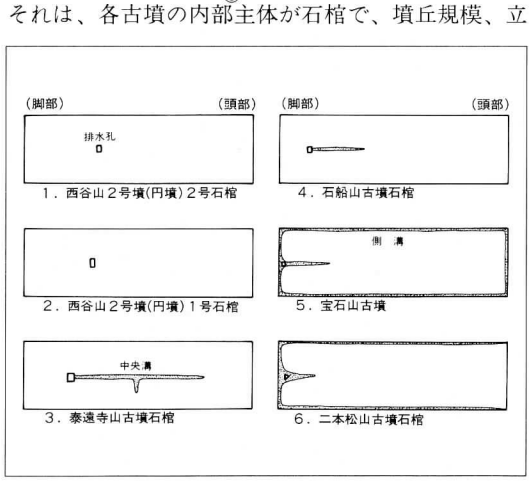
II－3　排水孔と中央溝とが有る。（泰遠寺山古墳石棺）

II－4　排水孔と中央溝と側溝とが有る。

（二本松山古墳2号石棺）

これら各タイプの時期は、石棺の形態や副葬品からII－1は第1四半期に、II－2は第2四半期に、II－3は第3四半期に、II－4は第4四半期におおむね編年できよう。排水孔は、棺床の中央部より棺端へ近づくことが、中央溝は次第に短かくなっていくことが傾向性として指摘できる（第2図）。排水孔出現の契機は、追葬が行なわれるようになって、石棺蓋を開いたとき棺床に水などの液体が溜っていたので、これを排出する必要性からであろう。それが、石工の工夫により漸次発達し、変化したものと考えられる。

ところで、越前で石棺が発見されるのは、九頭竜川水系のごく限られた一部の古墳群からであり、その分布は時期によって異なっている（第1図）。ここで注目すべき点は、前期から後期までの石棺が発見されているのは、松岡古墳群のみという事実である。松岡古墳群中の大型前方後円墳は、隣接する丸岡古墳群中の大型前方後円墳と共に、九頭竜川水系を支配した大首長墓の系譜[6]につらなるものと考えられる。それは、各古墳の内部主体が石棺で、墳丘規模、立地高度、埴輪・葺石・段築といった外部施設の点などで他の古墳と著しく隔絶していることによる。松岡・丸岡古墳群以外の古墳群から発見される石棺は、全て円墳からであり、前方後円墳からは一個も発見されていない。そこに、大首長と地域首長との明確な上下関係を読みとることができる。



第2図　排水孔と排水溝の変遷（模式図）

いいかえるなら、石棺の使用に当っては九頭竜川水系を支配した大首長が決定権を有していたことがうかがわれる。また、石棺の使用を許可された一部の首長は、大首長と極めて密接な関係を有していたと考えられる。

石棺材の産地は、現在の石工の肉眼的観察によれば、全て現在も広く使用されている福井市足羽山産の笏谷石（凝灰岩）と考えてよいようである。[7]よって、石棺を造る工人は、大首長の管掌下にあったことはいうまでもあるまい。

5世紀末頃に、石棺が水軍の長の墓と考えられる免鳥の古墳にまで広がっている事実は、その頃大首長が水軍を必要としたことを物語るものであろう。6世紀代になると石棺が酒生・東郷古墳群に見られるが、新しい勢力の台頭がうかがえる。この頃には、足羽古墳群を奥津城とした勢力は衰えたと考えられる。

以上、簡単に越前の石棺についての研究概要を述べたが、越前の石棺工人はどこから来たかなど解明すべき点は多い。今後の課題として追求していきたいと思う。　（青木豊昭）

①『足羽山の古墳』（斉藤優1960）に越前の石棺の実測図が集成されているが、小山谷2号石棺、六呂瀬山1号墳石棺、兎越山5号墳石棺、西谷山2号墳1号石棺、二本松山古墳1号石棺については記されていない。これらについては、『改訂松岡古墳群』斉藤優、1979・『兎越山古墳調査略報』沼弘、1966や福井県立博物館収蔵石棺資料による。この他に、三個の石棺があると伝聞しているが実見していない。

②「家形石棺上」『古代学研究第4号』小林行男、1950

③現在のところ、越前で排水孔が最初に造られた石棺は西谷山2号墳2号石棺で、最後に造られた石棺は二本松山古墳2号石棺。排水孔の平面形が三角形を呈するのは二本松山古墳2号石棺のみ、他は全て方形である。よって、宝石山古墳石棺が二本松山古墳2号石棺より古いと考えている。

④この他に、排水孔が棺側にある石棺として免鳥石棺、酒生石棺があるが、当初からあったものか、後世にあけたものか明らかでない。よって、排水孔のある石棺の中に入れていない。

⑥大首長墓の系譜については、①手繰ヶ城山古墳（4世紀後半）、②六呂瀬山1号墳（5世紀前後）、③六呂瀬山3号墳（5世紀前半）、④泰遠寺山古墳（5世紀中頃）、⑤石船山古墳（5世紀後半）、⑥二本松山古墳（5世紀末頃）、⑦鳥越山古墳（6世紀前半）、⑧東三峰山古墳（6世紀中頃）と考えている。足羽古墳群で4世紀後半に比定される小山谷古墳や山頂古墳が石棺を持つことから、それらと同時期で、上位の首長と考えられる手繰ヶ城山古墳も石棺を持つと考えられる。六呂瀬山3号墳、東三峰山古墳についても同じ考えである。

⑦研究者の中では、春日山古墳石棺材を、足羽山産でないと考えるものが斉藤優をはじめとして多い。

資料紹介

木造 観音菩薩立像 一軀

鎌倉時代　丸岡町田屋　豊原家蔵

丸岡町は坂井平野の東端に位置し、九頭龍川をはさんで福井市にあいむかい、背後に加越山地に連なる山々を背負う。その丸岡町の更に東に入った山中に白山豊原寺があった。本像は豊原寺の遺品である。

桧材、寄木造り、漆箔仕上げ、玉眼嵌入、像高71.4cmの比較的小像であるが、後補部が少くしっかりしている。

高い髻を結い、蓮華を三面につけた天冠台を彫出し、髪は額に沿って左右に流す。耳朶を貫通させ三道をきざむ。天衣・条帛をつけ、左手はやや屈臂して体側にそって垂下し、手首をまげ、掌を上にして五指をやや屈する。右手は屈臂して掌を前にしてたて、第一・三・四指を捻ずる。腰布をつけ、裳を一段折り返し、左脚をやや後方に引き腰をややひねって立つ。

切れ長の目、ひきしまった口もと、張りのある頬と生命感のある面貌を見せ、衣文の彫りも力強い。

また、髪や衣文の処理に技巧を感じさせる、中央風を思わせる佳品である。

白山豊原寺は、越前馬場平泉寺につぐ、福井の白山信仰の拠点であり、「豊原三千坊」と称され中世から近世にかけて諸文献に散見する。またその縁起「白山豊原寺縁起」は室町中期の成立とされ、それによれば寛喜元（1229）年延暦寺末になったという。室町以降は醍醐・三宝院末となり越前における修験道の中心的道場となったが中世末の戦乱で最後は信長によって焼かれている。

豊原家は再興された豊原寺が明治の神仏分離令により白山神社と華蔵院に分かれた、華蔵院の院主の家で、近年丸岡町田屋に下山してきた。同家には平安末期の薬師像・阿弥陀像をはじめ多くの仏像が存する。（長坂）

―― ビデオライブラリーから ――

福井の四季

福井の四季の魅力は、様々な生物たちをつつみこむ環境の純粋さにあります。

この番組では四季をおって力強く生きている生物の姿を写し出しています。春の野に吹く可憐な花。北方系の湿原植物が自生する池河内湿原。刈込池にみられるモリアオガエルの産卵。ヒナを育てるクマタカ。白山の高山植物。きびしい冬の予感の中でのつかのまのあでやかさを競う紅葉。北からの渡り鳥。

特に、モリアオガエルやニホンカモシカの交尾のようすは容易に観察できるものではありません。撮影は山岳地帯にも入り、約1年半にわたって続けられたものです。なお、この番組は、科学技術映画祭に参加した作品です。

土と炎の歴史（越前焼）

越前焼は、中世から近世にかけて、日常雑器として盛んに生産されましたが、その成立の過程や形の移り変わりなどをわかりやすく示しました。そこでは、縄文土器以降の〝焼きもの〟の歴史をたどりながら、越前焼の生産が、平安時代に丹生郡一帯で行われた須恵器生産を母体に、猿投など東海地方の窯業の影響下に成立したことを明らかにしました。

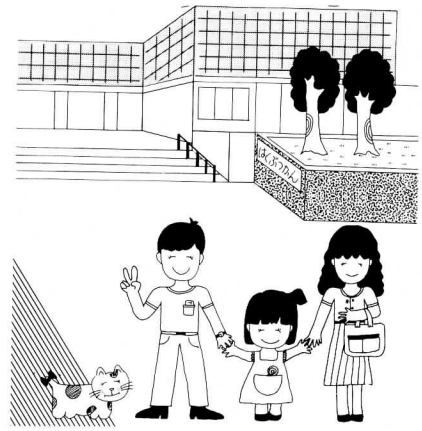
越前焼は、農業生産と関りの深い壺・甕・擂鉢の3器種を基本としますが、時代が下がるにつれて、様々な用途に応じた器種が生み出されました。

また、大甕などは、帯状の粘土を輪積みにして成形しますが、この〝越前輪積技法〟を今に伝える藤田重郎右衛門氏の仕事ぶりをつぶさに紹介しました。

友の会会員募集！…あなたもお入りになりませんか？

県民の皆さまに親しまれ、ともに歩む博物館をめざして、このたび福井県立博物館友の会（小・中学生はジュニアサークル）が発足しました。この会は、博物館事業の普及をはかるとともに、会員の教養を豊かにし、会員相互の親睦を深めることを目的としています。

この会の趣旨にご賛同いただき、会の発展のためにより多くの皆さまがご入会してくださるようご案内申しあげます。



会員になると

- ○博物館事業と友の会事業が事前に案内されます。
- ○博物館事業に優先的に参加できます。
- ○博物館常設展示を何度でも観覧できます。
- ○「ふくいミュージアム」が送付されます。
- ○会報などの印刷物を発行します。
- ○博物館事業へ参加・協力します。

会員の期間

毎年４月１日から翌年３月31日までの１年間です。

＊ただし、今年度入会された方は昭和61年３月＊
＊31日まで有効で、会費は一年分となります。＊

会費は　（年額）

- ○大　人　3,000円
- ○大学生・高校生　2,000円
- ★ジュニアサークル
  中学生・小学生　1,000円

会ではこんな事業を行います

- ○講演会、見学会などの例会を開催します。

入会の方法は

右の入会申し込み書にご記入のうえ、会費は次のいずれかで納入してください。

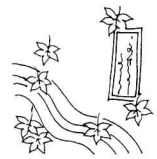
- ○直接博物館内事務局へ納入（申込書を添え）
- ○郵便局より振替で郵送（申込書は別に郵送）
- ○現金書留で郵送（申込書同封）

口座振替	
口座番号	金沢　5-23379
口座名称	福井県立博物館友の会

★入会の手続きが終了しますと、会員証をお渡しします。

郷土の人物シリーズ

――文化人　朝倉義景――



花ながす　むかしをくみて　山水の
　　一葉をさそふ　風の涼しさ

この和歌は、越前の戦国大名であった第五代一乗谷城主朝倉義景が、永禄５（1562）年、京の都より越前に来た大覚寺義俊らを歓迎する意味で、一乗谷で催された「曲水の宴」で詠んだ歌です。

曲水の宴とは、中国の故事にならい、曲り流れる水に沿って所々にすわり、上流から流される杯が自分の前を通過する前に、歌を詠んで杯をとり、酒を飲みほして、また流れを使って次の人に送るというたいへん風流な遊びです。

このように、朝倉氏は代々、京文化を積極的にとり入れた戦国大名ですが、特に五代義景は深い関心をよせ、宗養といった一流の連歌師より和歌を学んだりして、度々、連歌会を催したといわれます。また、茶道にも興味を持ち、現在、五島美術館（東京）に伝来している「本能寺文琳」と呼ばれる茶入の壺は、義景が滅亡する前に織田信長に贈ったもので、「朝倉文琳」といわれるものです。その他、絵画や猿楽などの芸能にも興味を持ったといわれています。以上のように、戦国大名というと、戦さでの荒々しいイメージを想像しますが、朝倉義景は戦国大名としては、画期的な文化人だったといえます。それがまた、朝倉氏滅亡の原因の一つとも考えられます。

（山形）

博物館　もうひとつの出会い　県立博物館 秋冬の行事

◆外部企画 岡島美術記念館館蔵品展	10月26日(金)～ 11月25日(日)	同館が所蔵する刀装具、金銅仏などを公開。（会場：博物館特別展示室）	
◆講演会 越前の条里制 —土地に刻まれた古代—	11月4日(日)	京都大学名誉教授　岸　俊男先生	高校生以上
◆講演会 やきものの話 天目と私	11月25日(日)	陶芸家：木村盛和氏、茶道裏千家淡交会福井支部青年部との共催。10：00から4：00まで館内で同部による呈茶（お茶券300円）をあわせて開催。	講演会は高校生以上
◆講演会 恐竜の進化	2月中旬	横浜国立大学教授　長谷川善和先生	高校生以上 （小学校高学年 中学生も可）
◆考古教室 古代の越前・若狭	10月7日(日) 10月13日(土) 10月14日(日) 10月28日(日)	第1回「縄文土器の話」 第2回「越の大首長墓と石棺」 第3回見学会「越の大首長墓めぐり」 第4回「古代寺院と地方豪族」	中学生以上
◆親子で学ぶ歴史教室 江戸時代の交通	11月10日(土) 11月11日(日) 11月18日(日)	第1回「街道と宿場町」 第2回見学会「今庄宿と木の芽峠」 第3回「廻船と湊町」	小学校高学年と父兄
◆美術史教室 白山信仰の問題	1月13日(日) 1月27日(日) 2月10日(日) 2月24日(日)	第1回「泰澄大師について」 第2回「白山をめぐる伝説」 第3回「十一面観音について」 第4回「白山信仰と文化財」	高校生以上
◆学習会 しめ縄を作ろう	12月2日(日)	正月としめ縄の意味を知り、自分で作ったしめ縄で正月を迎えよう。	材料費1人300円程度 小学校高学年と父兄
◆学習会 博物館オリエンテーリング	12月9日(日)	博物館の展示室を山野にみたてオリエンテーリング(O.L.)形式で展示内容の学習をする。それぞれの関門にある問題に正しく答えているかで順位を競う。	小学校高学年
◆観察会 わたり鳥の観察会	10月28日(日)	三国町大堤は冬に飛来する水鳥の宝庫。水鳥の種類を調べ、生態を観察する。	小中学生と父兄
◆映画会	10月21日(日) 12月16日(日)	「縄文時代」 「月の輪古墳の発掘」 題目未定	無料（博物館へ入館して下さい）

※詳しい内容は約1ヵ月前にテレビ・新聞・ラジオ等でお知らせします。

8/7常設展の入館者5万人を突破！

記念品を贈られる枡谷佐代美さん

資料収集に御協力下さい

ふくいミュージアム　No.6　1984.10.1

編集　福井県立博物館
発行　福井市大宮2丁目19－15
〒910
☎ 0776－22－4675(代)
印刷　出口印刷株式会社